

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0174600197		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	グループホーム ベルエポック		
所在地	〒089-1182 帯広市川西町西1線47番地6 (電話) 0155-59-2350		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年9月18日	評価確定日	平成19年10月22日

【情報提供票より】 (平成19年 8月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 11年 2月 23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	6.54

(2) 建物概要

建物構造	木造合金メッキ鋼 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (8月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1		要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2			
年齢	平均 88.2 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北斗病院(脳神経外科・歯科) 大江病院「精神神経科」		
---------	----------------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームベルエポックは開設して8年が過ぎ、農村地帯の中に同法人の各種施設が多数集積している。その中の一角に違和感なく溶け込んで建っている。ホームの周りには畑があり、野菜、花を育て毎日の生活の中に楽しみを見つけている。法人の基本理念をもとにしながら、ベルエポック独自の理念、方針が明確でありサービスに対する管理者の熱意が職員間に伝わっている。利用者本位のケアの実現に管理者、職員が一体となって取り組んでいる。同業者の中で指導的なホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 利用者の暮らしぶりや、日常の様子が分かるようにホーム便りの発行や、市町村との連携を積極的に働きかけることが改善課題であった。改善点について職員間で話し合いホーム便りの発行を行ない家族へ送付した。また市町村との連携は運営推進会議はあるが積極的な連携を取るまでには至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義、目的を理解し、職員全員が自己評価に取り組んでいる。更に全体で取りまとめて職員会議で話し合い職員間で共有している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、参加メンバーから、質問要望など意見交換を行なっている。利用者の状況報告、行事内容、外部評価の取り組みについて話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。6/16に運営推進会議参加者と、利用者、家族、職員と一緒に畑作りやバーベキューで交流をもっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時に気軽に苦情要望を話してもらえそうな雰囲気づくりに配慮している。運営推進会議に家族も参加しており、会議の中で意見要望を聴くことが出来、出された意見要望はミーティングなどで話し合い反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣近所の住宅へは、歩いていくことが出来ないほどの距離があり、日常的に地域との交流は難しい。町内会に加入は無いが、町内会行事等(夏まつり)にはお誘いがあり、地元住民と折にふれ交流を持つ機会がある。また、隣接している同法人の施設との交流は活発に行なわれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内の基本理念である「地域社会への還元」を基に、グループホームの基本理念を住み慣れた地域での、「安心した暮らし」「地域との関わり方」について職員は機会あるごとに話し合い、独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目に付きやすい玄関ホールに、基本理念を掲示してある。ケース会議等に職員間で話し合い、具体的なケアについての目標達成に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入していないが町内会行事に参加している。地元住民と折りにふれ交流をもつ機会がある。また、法人内の施設が併設されており行事の他、施設間交流も活発に行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については職員は自己評価の意義、目的を理解し職員全員が自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。また、改善が必要なところは職員間で話し合い改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施している運営推進会議では利用者の状況報告、外部評価の取り組みについて話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村窓口へは、事務手続きのため行く機会は多いが、市職員の担当者との行き来する関係までには至っていない。	○	市町村担当者にホームの現場実情を伝えたり、ケアサービスの取り組みを折にふれ伝えるなど行政とホームが連携を持つことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、声をかけ利用者の暮らしぶりや、健康状態についてその都度連絡している。機関紙「ベルエポック便り」を発行しホーム内の暮らしぶりなどを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時、気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮している。また、苦情委員会が設置されており出された意見、要望は会議の中で話し合い、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は同法人施設からの異動が多く、また、利用者も同法人の特養から入居してきた方や、馴染みの職員もおりダメージが最小限になるように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、職員の経験などを踏まえ年間計画を立て各種委員会(看取り、褥瘡、口腔、ケアプラン)の研修会や外部研修の参加、法人内の合同研修会に参加している。またそれらの研修報告は全体会議の中で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会議に参加している。また、今年初めて他のグループホームとの夏祭りに参加し、相互交流を持つなどの活動を通してサービスの質の向上を図っている。	○	法人内の施設交流は多く持っているが、他の同業者との交流は少ないようなので、他のグループホームの見学、情報交換など相互訪問してサービスの質の向上につなげて欲しい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り本人、家族に見学の機会を持つようにしている。また家庭訪問を行い家族と相談しながら利用者が安心できる環境生活作りに工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の表情を見ながら野菜畑の作業、食事の準備の手伝い、洗濯干しなど利用者と一緒に活動することで、人生の先輩である利用者から教えてもらう場面、利用者同士で支え合う場面もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声をかけたり言葉や表情などから、情報収集し本人の思いに沿った支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と日頃の関わりの中で、家族や職員から情報を聞き介護計画に反映させるようにしている。介護計画は家族に確認してもらい承認日、確認印をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間内に見直しをおこなっているが、期間内に利用者の身体状態の変化や、状況、家族、本人の要望に応じてケース会議や、また、月一回の定例会で見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況に応じて、通院、送迎など必要に応じて臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医にかかることが基本となっている。受診、通院時には家族が付き添えない場合職員が付き添うなどの支援を行い結果を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期対応についてのホームの方針については、家族に説明している。今後本人家族主治医と相談し、利用者にとってよりよい終末期の過ごし方について、事業所が対応しえる最大限の支援の、学習機会を持つように考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の気持ちを考慮しつつ、周りに悟られないように敬意のある対応に配慮している。個人情報については、利用契約時に利用目的写真の使用などについて同意書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら畑仕事、食事の準備など常に利用者本意のペースを大切に、押し付けにならない活動をし、出来るだけ個別性のある支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で採れた野菜を、利用者と一緒に収穫し献立に取り入れたり、食事の準備や後片付けを利用者と共に行ない、利用者の負担にならないよう力量にあわせた支援が行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できる限り本人が希望する時間や、タイミングに合わせて入浴できるよう支援している。又入浴を拒む方に対して言葉かけや対応の工夫によって、一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴、身体状態を見ながら野菜畑の作業、洋裁、カラオケなど利用者の得意なことを力量に合わせた楽しみ事の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の体調を考慮しながら、散歩畑へ野菜を採りに行くなど生活歴、力量に合わせた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯は防犯上の理由から施錠しているが日中は施錠はしていない。職員は鍵をかけない事の大切さを理解し実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼間、夜間を想定して避難訓練、消火器の使用訓練を行なっている。近隣に民家はなく地域の人々の協力が得にくい立地条件なので併設している同法人の施設間の協力体制が出来ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の量、栄養バランス水分摂取量など毎日チェックし、職員間で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、トイレなど全てがバリアフリーになっている。居間の窓からは花壇の花や、畑の野菜などが見え季節感が感じられる。居間から台所の食事の準備の様子、食器の洗う音が聞こえ生活感が感じられ居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた馴染みの家具や、カラオケの機械、仏壇が置いてあったり、ベッドではなくソファの下で布団を引いて休むなど本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。